新　市　町

那珂湊市（なかみなと）

1. 沿　革

ここは水戸から汽車で30分、風光明眉な那珂川の河口から磯崎海岸一帯に古くから発達した港町である、ここは昔阿多加奈湖といつて、承平年間大椽氏の臣小泉重幹が住んで、約1,000年前から人間が生活し、その後応永年間に入つてやや市街地を形作つたようである。徳川時代になつて、水戸藩主徳川頼房が港町の経営に着目し、次いで元禄11年光圀が寅賓閣を設け、歴代藩主がこの地を海防上、経済上の要地として大いに開発に努め今日の基礎が築かれた。当時は奥州方面からの諸船はここに必ず立寄つて帆柱林立の壮観を呈し、また下野地方から那珂川を下つた船も涸沼を経て江戸表に貨物を輸送したといわれ、仲湊の名は全国有数の要港として遠近に広く知られた。しかし鉄道バスの開設後は、専ら漁港として磯崎、平磯とならび県下重要の地位にのぼつたのである。昭和29年3月には、那珂湊町と平磯町、前渡村の一部が編入合併して、今や面積 24.56平方粁、人口33,642人（男15,653女17,989）世帯数 6,861を有する海岸都市として発足したのである。（昭和31年8月毎月人口世帯異動調査）

今後本市は、三漁港を中心に産業、経済、教育、交通観光上の中心地として大きく発展するものと思う。

2. 産　業

まず農業面を見ると、農家戸数2,340戸、人口14,036人（男6,822、女7,214）耕地面積1,019町（田266町、畑754町）である。中でも甘藷の作付は 623町で畑の8割を越しており、さすがいもどころの面目を示している。

次に畜産面では、乳牛9頭、役牛 114頭、馬43頭、めん羊3頭、山羊54頭、豚1,352頭、にわとり 2,331羽に過ぎないし、養蚕、林業では見るべきものがない。農機具類は、電動機44台、石油発動機101台、動力脱穀機115台足踏脱穀機352台、動力籾すり機13台、〃精粉機22台、〃精米（麦）機27台、人力噴霧器45台、動力製縄機10台、足踏製縄機140台、畜力カルチベーター31台、〃中耕除草機3台、〃砕土機23台、インシレージカッター4台を有している。

次に水産面を見ると、那珂湊、平磯、磯崎の三漁港を有し、大型船（75～150屯）91隻、小型発動機船115隻、揚操網4（16隻）、定置網1（6隻）、伝馬船324隻、計552隻の多数にのぼり、各種漁船が、近海は勿論遠く南洋方面へも出漁して非常に活躍している。年間漁獲高は、さんま1,013万2,000〆、びん長 89万〆、かつお40万1,000〆、いわし53万2,000〆、めばち11万1,000〆、たこ7万6,000〆、さめ6万3,000〆、たい3万〆、ぶり2万5,000〆、めかじき1万7,000〆、その他 8万5,000〆で、30年の総水揚量は実に1,236万2,000〆にのぼり、全県の約5割を占めている。今後も漁港や水揚市場の設備の拡充強化と大型漁船の建造を奨励して東日本有数の水産都市として飛躍的発展を遂げることであろう。

次に商業面を見ると、古い町だけあつて商店数も多く、法人および常用労働者のいる個人商店が 131、常用労働者のいない個人商店 581にのぼり、中でも飲食料品小売業が314もあつて約44％を占めている。（昭和31年7月商業調査）また工業面を見ると、従業者3人以下の事業所101、従業者283名、製造出荷額3億 1,000万円、従業者4人以上の事業所49、従業者 1,089名、製造出荷額7億8,600万円の多きに達し、中でもさんま、かつおの冷凍品やさんまの開き、刻こんぶの製量は非常に多く、県内は勿論関東近県に相当出荷されている。ここには、県立の水産試験場やかん詰工場があつて、県水産業界の指導的地位を占めており、まぐろの油煮、塩水漬、さんまの水煮、うなぎの塩水漬などは、海外まで輸出して大変好評を受けている由。また某製作所の孵卵器は、昔から有名で国内は勿論遠く外国にまで輸出している。

3. 教育文化

ここには、小学校6、中学校3、高等学校3、幼稚園4、各種学校1があはて、小学児童4,927名（男2,458、女2,459）中学生徒2,506名（男1,284、女1,222）、高等生徒 1,336名（男821　女515）　園児358名（男197、女161）をそれぞれ収容し、当地方における教育の中心地となつている。公民館活動も次第に充実してきたが、婦人会を中心に食生活の改善の講習会や懇談会を再三開いてその普及を計るとともに、「母と嫁」の懇談会や映画、幻灯会を随時開いたり、産児制限、計画産児の指導などを行い大きな成果をあげている由。

またここには名所旧蹟が多く、水戸八景の水門帰帆、烈公が大砲を鋳造した反射炉、近代的設備を誇る磯崎灯台、磯崎の酒列磯前神社、6,500万年前の化石といわれる平磯海岸の護摩壇磯、さんま出船祭などは、特に常陸国の歴史を物語るものといえよう。この地方は遠浅の海岸が多く、春は浜遊び、汐干狩、夏は海水浴、秋は釣りと四季を通じて、家族連れの客が多く、本県における観光地としても大きな役割を果しているが、さらに港町の発展と相まつて、新市の将来に大きな関心と期待が寄せられている。

（魚市場のさんま水揚げ）

4. 財　政

昭和31年度一般会計才入才出予算　（単位円）

才入	市税	地方交付税	公営企業及び財産収入	使用料及び手数料	国庫支出金	県支出金	寄付金	繰入金	繰越金	雑収入	市債	合計
	62,509,386	18,000,000	48,085	9,475,076	15,261,476	1,427,472	5,984,002	2	2,050,000	2,594,861	15,500,000	132,850,360

才出	議会費	市役所費	消防費	土木費	教育費	社会及び労働施設費	保険衛生費	産業経済費	財産費	統計調査費	選挙費	公債費	諸支出金	予備費	合計
	3,096,050	23,159,134	8,801,261	25,274,540	22,462,571	24,474,439	4,803,831	6,289,756	232,932	114,200	319,710	10,020,336	3,601,600	200,000	132,850,360

村の横顔

水府村（すいふ）

1. 沿革

本村は久慈郡の中央部に位し、山田川の流域に開けた山村地帯であるが常陸太田市からバスで北へ行くこと30分で新役場前に着く西は金砂山嶺を隔てて山方町および金砂郷村に接し、北は大子町、東は里美村とそれぞれ隣り合つている。丁度阿武隈山脈の分系に入り、村の大部分は丘陵起伏し平坦地は少いが山田の渓流を囲み、春はつつじ、夏は釣り、秋は紅葉と四季の変化に富んでいる。この地方は昔常陸国久慈郡(ごおり)に属し、山入郷、山田郷、高倉郷曽目村などに分れ、遠くは源義家が奥州征伐の際この地方を通過したといわれ、近くは徳川光圀以後代々の藩主が煙草やこうぞ、みつまたなどの栽培を奨励したそうである。昨年3月には、山田、染和田村と河内村の一部が本年9月には天下野、高倉村がそれぞれ合併して、新しく水府村となり、面積80.72平方粁、人口12,506人(男5,982女6,424)を有する広大な地域にふくれ上つた。(昭和31年8月毎月人口世帯異動調査)しかし合併直後なのであるが、電気の導入や文化活動の展開と相まつて今後の建設計画の樹立推進に大きな関心が寄せられている。

2. 産業

まず農業面を見ると、農家戸数1,747、農家人口10,592人(男5,092、女5,501)、耕地面積1,005町(田337町、畑665町)、樹園地3町、山林2,819町、原野522町を有している。特にたばこの作付は236町にのぼり、昔から水府煙草の名産地として広く知られているが、こんにやくの年産3,050〆、みつまた7,000〆、こうぞ1,500〆にのぼり本県の主要産地となつている。

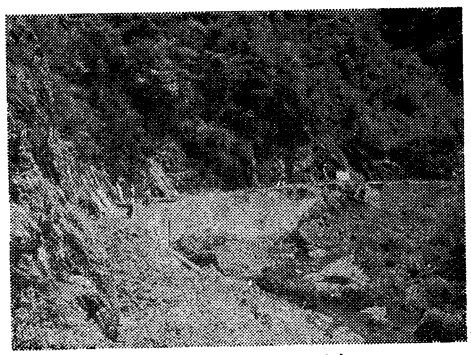
次に畜産面を見ると、乳牛87頭、役牛344頭、馬397頭豚126頭、めん羊139頭、山羊256頭、兎566頭、にわとり7,039羽、あひる17羽を飼養しているが、山麓地を利用してめん羊、山羊の放牧経営が普及してきた由。また農機具の普及は、山村地帯でも案外良好で、電動機48台、石油発動機167台、動力脱穀機197台、足踏〃1,184台、動力籾すり機21台、〃製粉機4台、〃精米麦機48台、噴霧機9台、人力〃222台、動力製縄機12台、足踏〃591台、畜力カルチベーター51台、〃砕土機51台、〃すき446台、畑用播種機14台に達している。また養蚕農家は22戸で、年間収繭高350〆に過ぎない。

次に林業面を見ると、山どころだけあつて年間の伐採量は非常に多く、年間生産薪6万5,000束、木炭6万6,000俵にのぼり、東京方面への出荷も相当ある由。戦後県の直轄工事で立派な林道が縦横に走り、砂防工事なども大規模に実施されて、人工造林の育成に力を注いでいる。

次に商工業面を見ると、山村だけあつてその見るべきものは殆どなく、おもなものはただ製材業者や雑貨小売業が若干ある程度である。すなわち商店数が140、製造業136、製造出荷額8,700万円となつている。(昭和30年12月工業調査)

3. 教育文化

ここには、小学校4(分校3)、中学校4あつて、小学児童数1,716名(男877、女839)、中学生徒数835名(男413、女422)である。公民館は分館を含め17あつて、『村の文化は公民館から』のモットーのもとに、図書の閲覧、料理講習会の開催、冠婚葬祭用の衣装、酒樽の貸付、青年学級の継続的開講、かまどの改善などによつて新生活運動や生活改善の事業を進めている。一昨年から無電灯部落の解消に乗り出し、約500万円の負担金を出してその実現に努力し今では無灯家屋30戸程度に減少した。高倉地区には、昔平家の落武者が住みついたと伝えられる安寺(あてら)、持方(もちかた)、下部生(しもだきう)は、歴史的研究の好個の資料を提供しており、今では昔の面影は殆どなくなり、電気も入つて、電気洗濯機まで使用している者もある由。天下野地区にある東金砂神社の例祭は有名で、特に70年に1回の大祭礼、3年に1回の小祭礼には、昔の大名行列をまねて久慈浜まで下り、近在から大勢の参拝者が集まるそうであるが、その田楽祭は県の無形文化財として指定されている。また山田地区には、昭和4年に水戸煙草試験場が創設されて、葉たばこ栽培の試験研究を行つており、県内は勿論各県からも見学者が少くないそうである。



(竜神川附近の林道工事)

4. 財政

昭和31年度一般会計才入才出予算　(単位円)

才入	村税	地方交付税	公企業及び財産収入	使用料及び手数料	国庫支出金	県支出金	寄附金	繰入金	繰越金	雑収入	合計
	12,791,050	15,540,500	5,901,680	164,700	1,379,086	710,376	500,210	1,346,608	6,081,087	188,010	44,603,307

才出	議会費	役場費	消防費	土木費	教育費	社会及び労働施設費	保健衛生費	産業経済費	地方振興費	財産費	統計調査費	選挙費	公債費	諸支出金	予備費	合計
	1,125,587	11,007,580	4,065,972	2,878,640	13,288,891	535,480	600,160	3,959,558	3,949,100	1,587,669	128,800	229,620	334,140	604,617	307,493	44,603,307